

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		マルクスコラ山越教室				公表日 2025年10月31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	1	3	パーテーションなどを使用し、安心できるスペースを作っている。	十分な静養室などのスペース確保が難しい。
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	2	シフトにて人員を調整している。 人員確保のための採用活動を随時行っている。	基準は満たせているが、余裕はないと感じる。 行政的配置基準には満たしているものの、職員に有給を取得させる余裕がなく、人員に余裕がない状態。急な体調不良が出た場合に対応が難しくなる為、実質的な適切さには課題がある。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		生徒さんに合わせ、必要に応じ掲示物等調整している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		ダンス等の時には机を片付け広く使うなど工夫している。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	2	2	相談室を使うなどしてクールダウンしたり悩み相談を受ける場合には希望に沿った場所の確保を工夫している。	静養室として固定の個室がない。 相談室を面談等で使用している際には、スタッフフレーム等の場所で代用しないといけない。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		毎日個別支援計画書の再確認と支援の振り返りを実施している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		今回実施。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		今回実施。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	2	保護者様や相談員さんからの評価を外部と認定できる場合は取り組めている。 相談員さん等の関係先から助言を受けた場合、改善に向けて動いている。	第三者による外部評価がどういうものかわからない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		毎月行っている。 状況に応じて2回実施する月もある。	
適応	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		毎月プログラムカレンダーを作成している。5領域に沿った内容の公表も行っている。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		ニーズの把握ができるアンケート用紙を運用している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		全スタッフでモニタリング、計画書の協議を行っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		毎日個別支援計画書の再確認を行っている。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	1		フォーマルなアセスメントツールについてはより良い書式を活用したい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		具体的な内容になるよう意識して作成している。	

切 な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		カレンダーの内容は会議で決めている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		カレンダー会議にて、バランスよく実施プログラムを検討している。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		個々の状況に応じた計画書の内容としている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		毎日朝礼にて実施。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		業務終了前のデイリーミーティングにて実施。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		全生徒さんに関する支援の記録を毎日とっている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		規定通りのモニタリング面談を実施している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	4		バランスを考え実施している。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		生徒さんの自己決定、ニーズを重要視している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		生徒さんのことを具体的に話して共有している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		医療機関との連携を密に行っている。 訪問看護ステーションとも連携を取っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		送迎を行っていないため、必要に応じて連携を取っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	2	保護者様からの聞き取りで過去の支援状況を把握している。	利用開始になるタイミングが高学年以降のことが多いため、直接の情報共有をする機会が少ない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	1		しているときとできない時があると思う。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	1	地域の児童発達支援センターの相談員さんから利用者様に関する助言をいただく機会を持っている。 児童発達支援センターではないが、外部機関にスーパーバイズを受ける研修の参加予定がある。	できていないのではないか。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	4		病院とのコラボレーションで、放課後等デイサービス事業所以外の施設の利用者様と交流できる企画を計画中。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4		初回の参加ができなかったが、地区的放課後等デイサービス事業所へ順次見学等実施している。	
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		送迎時にお伝えしたり、LINEにて共有したり、電話で伝えたりしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	2	モニタリング面談にて保護者様に具体的な助言を行っている。 保護者様に向けた研修を開催、参加を促した。 訪問看護ステーションとのコラボプログラムや、親子参加プログラムを企画しカレンダーに記載して参加を募った。	できていない。 対応できるスタッフはいるが、自分はまだできていない。

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時に実施。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		ニーズを重要視して計画を作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		規定通り行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		モニタリング面談以外でも必要に応じご家族と面談を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		家族向けの喫茶企画を実施し、家族で生徒さんの活躍を体感できるプログラムを行った。親子バレー等の企画を模索中。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4		インスタグラム、スコラ通信、ブログなどの発信をしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報の取り扱いに関する細かい取り決めを個々の生徒さんと行っている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		必要に応じてコミュニケーションカードや気持ちを伝えるカードを作成し運用している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4		地域に向けたイベントの企画をした。通信制高校の合同説明会の実施を主催することができた。	事業所での実施のイベントの場合、地域の住民の方に参加をしていただく確率が低い。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4		アセスメントにて聞き取り全スタッフに共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		アセスメントにて聞き取り全スタッフに共有している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		警察の協力のもと安全管理についての研修訓練を実施した。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		教室に掲示し、契約時にも説明共有している。実際の避難行動に沿ったフローを作成している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		研修の機会を規定通り作っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		今はいないが、対象児がいた場合は保護者様と協議の上決めていた。現在は支援の結果その必要がなくなった。	